

株主の
皆様へ

第56期第2四半期

株主通信

2023年 春号

2022年10月1日から
2023年3月31日まで

【個人投資家の皆様へ】

詳しくはホームページをご覧ください。



<https://www.asaka.co.jp/>



証券コード
5724

『飯豊山』

福島、山形、新潟三県にまたがる広大な飯豊連峰。その中で飯豊山は一等三角点も置かれた飯豊連峰の盟峰です。修験道の山として、人々の信仰を古くから集めてきた歴史があり、夏まで残る豊富な残雪と規模の大きな高山植物のお花畑は大きな魅力です。また、飯豊山からの雪解け水や湧き水は喜多方市付近の水田を潤してお米を育み、水道水や日本酒の仕込み水としても使われて人々の暮らしに役立っています。



株式会社アサカ理研

Top Message

代表取締役社長 山田 浩太



当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策が新たな段階に移行する中で、景気は緩やかに持ち直しの動きがみられたものの、地政学リスクの高まりや世界的なインフレ、エネルギー・資源価格の高騰等、依然として不透明な状況が続いております。

当社グループにおいては、民生電子機器や情報通信機器に使われる半導体製品等の電子部品需要の低下に伴う、取引先の減産等を受けて貴金属の取り扱い数量は前年同四半期を下回りました。主要製品のうち、貴金属の価格は米国金利の利上げベースが一服するとの見方からドル建て価格が堅調に推移したことや、安全資産としての金の需要が高まったことに加え、円安ドル高の影響により前年同四半期を上回る水準となりました。

銅の価格は、世界最大の銅消費国である中国の経済停滞や、各国利上げによる世界経済減速への懸念からドル建て価格は前年同四半期の水準を下回ったものの、円建て価格は円安ドル高の影響により前年同四半期を上回る水準となりました。

このような事業環境の中、当社グループは資源循環型社会の実現を見据えた取り組みをより拡充し、経営基盤の強化及

び新規事業の確立に努めました。既存事業では脱炭素社会の実現に向けた取り組みやDXの推進等に伴い拡大が期待される電子部品業界において、取引先とのリレーション強化や独自技術を武器とした新規開拓に注力しました。

新規事業では、リチウムイオン電池(以下、LiB:Lithium-ion Battery)再生事業の研究開発及び事業化に引き続き注力し、より効率的な製品化プロセスの確立を目指した実証実験を行っております。なお、事業スキーム構築を目的とした事業パートナーとの連携につきましては現在も大きな枠組みの形成に向けて、複数企業とアライアンス締結に向けた交渉を継続しております。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の概況

【当第2四半期連結累計期間は増収減益】

当第2四半期連結累計期間の連結業績は売上高4,246百万円(対前年同四半期2.6%増)、営業利益292百万円(同28.8%減)、経常利益276百万円(同30.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益224百万円(同24.6%減)となりました。貴金属の主要製品価格は前年同四半期を上回ったものの、貴金属の取り扱い数量が減少したことに加え、人件費や減価償却費等の経費が増加したことにより、増収減益となりました。

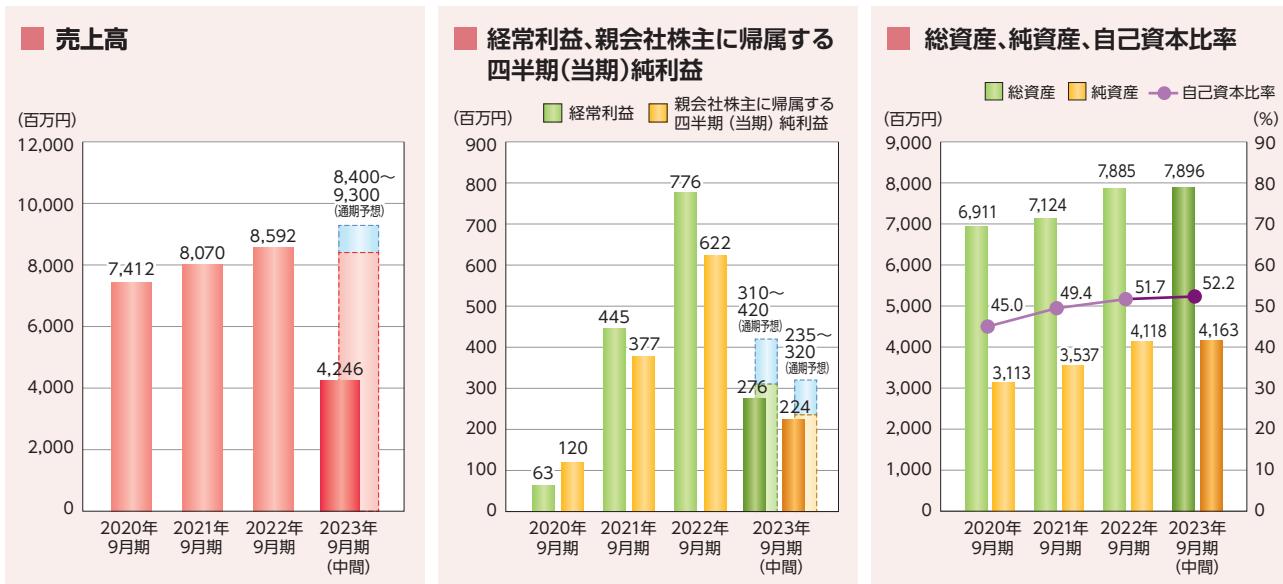
【2023年9月期第2四半期(累計)連結業績予想と実績値との差異について】

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、民生電子機器や情報通信機器に使われる半導体製品等の電子部

品需要の低下に伴う、取引先の減産等を受けて貴金属の取り扱い数量は当社の見込みを下回ったものの、当社の主力製品である貴金属及び銅の価格が予想を上回ったことにより、前回公表予想のレンジ内で着地しております。利益面につきましては、貴金属の取り扱い数量が想定を下回ったこと及び、薬品単価や電気料金等の高騰に伴う経費の増加が想定を上回ったことで、2022年11月に公表いたしました予想のレンジの下限を下回りました。

通期連結業績予想につきましては、貴金属の取り扱い数量の回復を見込んでいることに加え、貴金属及び銅の価格も堅調に推移するものと見込んでいるため、前回公表予想の数値から変更はございません。

今後の業績の動向により、通期連結業績予想の修正が必要と判断した場合には速やかに開示いたします。



連結財務諸表

■ 四半期連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

（単位：百万円）

	当第2四半期末 (2023年3月31日)	前期末 (2022年9月30日)		当第2四半期末 (2023年3月31日)	前期末 (2022年9月30日)
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債	2,202	2,185
現金及び預金	2,115	1,974	固定負債	1,529	1,582
受取手形及び売掛金	373	431	負債合計 ②	3,732	3,767
棚卸資産	1,224	1,420	純資産の部		
その他	268	426	株主資本		
固定資産			資本金	504	504
有形固定資産	3,533	3,259	資本剰余金	369	366
無形固定資産	27	34	利益剰余金	3,341	3,197
投資その他の資産	352	339	自己株式	△ 150	△ 33
資産合計 ①	7,896	7,885	その他の包括利益累計額	54	42
			新株予約権	41	36
			非支配株主持分	4	4
			純資産合計	4,163	4,118
			負債純資産合計	7,896	7,885

Point ①

前連結会計年度末に比べて10百万円増加し、7,896百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が141百万円、建設仮勘定が237百万円増加し、棚卸資産が195百万円、その他（流動資産）が158百万円減少したことです。

Point ②

前連結会計年度末に比べて34百万円減少し、3,732百万円となりました。主な要因は、買掛金が9百万円、借入金金が54百万円、未払法人税等が89百万円、借入金地金が77百万円減少し、その他（流動負債）が197百万円増加したことです。

Point ③

営業活動によるキャッシュ・フローは、606百万円の収入となりました（前年同四半期は549百万円の収入）。この主な内訳は、税金等調整前四半期純利益が274百万円、減価償却費が122百万円、棚卸資産の減少額が195百万円です。

Point ④

投資活動によるキャッシュ・フローは、190百万円の支出となりました（前年同四半期は68百万円の支出）。この主な内訳は、有形固定資産の取得による支出が183百万円、その他の支出が7百万円です。

Point ⑤

財務活動によるキャッシュ・フローは、273百万円の支出となりました（前年同四半期は419百万円の支出）。この主な内訳は、長期借入金の返済による支出が52百万円、自己株式の取得による支出が125百万円、配当金の支払額が80百万円です。

■ 四半期連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	当第2四半期 (2022年10月1日～ 2023年3月31日)	前第2四半期 (2021年10月1日～ 2022年3月31日)
売上高	4,246	4,139
売上原価	3,027	2,887
売上総利益	1,218	1,251
販売費及び一般管理費	926	841
営業利益	292	410
営業外収益	13	9
営業外費用	29	21
経常利益	276	399
特別利益	1	—
特別損失	3	20
税金等調整前四半期純利益	274	378
法人税等	49	80
四半期純利益	224	297
非支配株主に帰属する 四半期純損失(△)	△0	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	224	297

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

	当第2四半期 (2022年10月1日～ 2023年3月31日)	前第2四半期 (2021年10月1日～ 2022年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー③	606	549
投資活動によるキャッシュ・フロー④	△ 190	△ 68
財務活動によるキャッシュ・フロー⑤	△ 273	△ 419
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1	1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	141	62
現金及び現金同等物の期首残高	1,346	1,054
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,488	1,117

■ 事業セグメントごとの状況

■ 貴金属事業

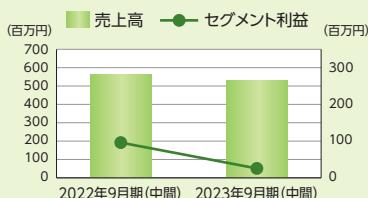
主要製品の価格が前年同四半期を上回ったことで、売上高は3,647百万円（対前年同四半期4.3%増）となりました。

貴金属の取り扱い数量が減少したことに加え、間接部門の経費負担が増加したことにより、セグメント利益は245百万円（同17.9%減）の増収減益となりました。



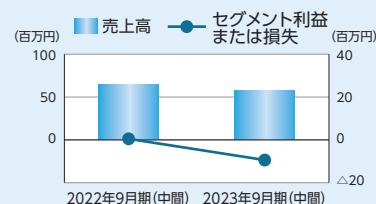
■ 環境事業

銅の販売数量の減少により売上高は530百万円（同6.7%減）、セグメント利益は27百万円（同72.0%減）の減収減益となりました。



■ システム事業

主力製品である品質管理システムの販売が減少したことにより、売上高は57百万円（同10.8%減）、間接部門の経費負担が増加したことにより、セグメント損失は9百万円（前年同四半期は0百万円の利益）となりました。



人事制度を改定しました

当社は社是・理念を支える強い組織を目指し、2023年4月に人事制度を改定しました。

■ 役割を明確にし、多様な人材の協働を促進する制度

多様なキャリア志向や担う職務に対応すべく、4つのコース(Mコース:マネジメント、SPコース:スペシャリスト、Pコース:プロフェッショナル、Fコース:ファウンデーション)を新設しました。求められる役割の違いに応じて、それぞれに合致する評価・報酬体系を構築しています。これに伴い、昇進・昇格に関しては、役割の発揮度を重視するよう変更しており、年功的処遇につながる年齢条件を廃止しました。

今後コースごとに必要な知識やスキル、教育体系を明確にすることにより、社員の自発的なキャリア形成を支援していきます。

■ 全社員に共通する期待行動を明確にし、成果につながる行動を促進する制度

当社の存在意義を示す社是の実現に向けて、「自ら学ぶ」「やり遂げる」「チャレンジする」「真の優しさで強い組織をつくる」といった期待人材像と期待行動を明確化し、シンプルに社員に提示しています。社員は成果につながる重要な行動に集中することが可能になると考えています。

当社が重視する役割と行動を発揮する人材を適切に評価し、報いる制度にすることで、社是・理念を支える「全員がチャレンジし、教え学び合い高め合う組織」をつくり、当社の事業と社員の成長を促進してまいります。



Information (2023年3月31日現在)

会社概要

商号	株式会社アサカ理研
本社	〒963-0725 福島県郡山市田村町 金屋字マセロ47番地
設立年月日	1969年8月25日
資本金	504,295,600円

事業内容

- ①貴金属事業 / 金地金、銀地金、白金地金、パラジウム、貴金属回収精製処理及び販売、各種治具の洗浄・再生、機能部品の再生及び販売
- ②環境事業 / 塩化第二鉄液の再生・販売、銅粉の回収、銅ペレットの製造・販売
- ③システム事業 / 自動計測検査システム、計測ネットワークシステムの開発及び販売
- ④その他の事業 / 工業薬品の運搬、廃液の収集運搬

役員

代表取締役会長	山田 慶太
代表取締役社長	山田 浩太
取締役	佐久間 良一
取締役	佐久間 幸雄
取締役	市川 文子
取締役(監査等委員長)	三崎 秀央
取締役(監査等委員)	高野 俊哉
取締役(監査等委員)	遠藤 健太郎

(注) 取締役 市川文子氏、取締役(監査等委員)三崎秀央氏、高野俊哉氏及び遠藤健太郎氏は、社外取締役であります。

株式の状況

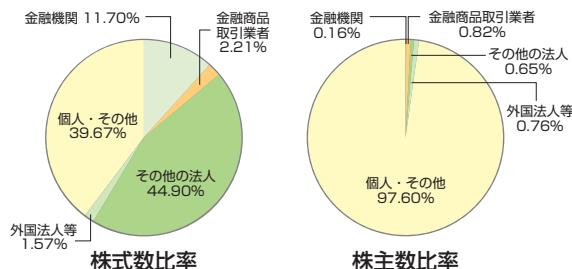
発行可能株式総数	20,400,000株
発行済株式総数	5,144,600株 (自己株式137,392株を含む)
株主数	3,679名

大株主の状況

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
有限会社モラル・コーポレーション	2,102,060	41.98
白岩政一	218,100	4.36
株式会社常陽銀行	180,000	3.59
株式会社東邦銀行	162,200	3.24
日本生命保険相互会社	145,000	2.90
東京中小企業投資育成株式会社	100,000	2.00
日本証券金融株式会社	77,800	1.55
アサカ理研社員持株会	56,448	1.13
株式会社SBI証券	40,063	0.80
楽天証券株式会社	35,200	0.70

(注) 当社は自己株式(137,392株)を保有しておりますが、議決権がないため、上記に含めておりません。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



(注) 上記比率は、当社保有の自己株式(137,392株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日	特別口座の 口座管理機関	東京証券代行株式会社
配当金受領 株主確定日	9月30日 なお、中間配当を実施するときは3月31日	同連絡先	東京証券代行株式会社 事務センター 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL:0120-49-7009(通話料無料)
定時株主総会	毎年12月	上場証券取引所	東京証券取引所
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.asaka.co.jp/ ※ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL:0120-232-711(通話料無料) 【郵送先】 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部		

ご注意

- (1) 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、東京証券代行が口座管理機関となっておりますので、東京証券代行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意ください。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



一ノ戸川橋梁とSLばんえつ物語号

JR磐越西線の喜多方駅一山郡駅間にある一ノ戸川橋梁は、1908年に建設された長さ445m、高さ24mの長大な鉄橋で、近代化産業遺産にも選ばれています。「SLばんえつ物語号」の通過ポイントになっており、飯豊山を背に走る車両への展望を遮るものがなく絶好の撮影場所として人気があります。また、列車が通過する音は「うつくしまの音30景」にも選定され、年に数回幻想的な雰囲気を楽しむライトアップも開催されています。

福島の旅が丸わかり!!

うつくしま観光プロモーション推進機構（公益財団法人福島県観光物産交流協会 内）
〒960-8053 福島県福島市三河南町1番20号（コラッセふくしま7階）
TEL：024-525-4024 FAX：024-525-4087